



HIGASHICHICHIBUMURA

社会福祉協議会だより

第 7 号
令和 4 年 10 月 1 日発行

東秩父村社会福祉協議会
御堂 369 Tel 82-1238

社協における災害対応

台風 14 号は、これまでにない勢力で日本に接近し、九州へ上陸、日本海を経て東北地方を横断し太平洋へと抜けていきました。この台風の接近に伴い、日本中にその備えを怠らないよう注意が呼びかけられました。台風が通過した地域、及び台風からは離れた地域でも大雨や大風による被害が報告されました。幸い本村では大きな被害は出なかったようですが、今後の大型化する台風への備えがますます重要となってきました。

村では、こうした災害に備え東秩父村地域防災計画を策定し、災害の予防と災害発生時の対応を取りまとめています。

この計画の中で、社会福祉協議会の役割は、避難行動要支援者の支援および災害時におけるボランティア活動の支援に関すること等となっており、災害発生時には、村住民福祉課を本部長とする救助部において活動することとなります。

また、社協の災害救援物資配布基準は、別表の通りです。

別表 家屋の被害に対する災害救援物資配分基準

	全焼・全壊・流失	半壊・半焼	床上浸水等
布団セット 掛・敷 1組 シーツ 1枚 枕 1個	1人あたり1組 (小学生以上) ※但し、独身寮、作業飯場等住居者は除く	1人あたり1組 (小学生以上) ※但し、独身寮、作業飯場等住居者は除く	
毛 布	1人あたり1枚 (年齢問わず)	1人あたり1枚 (年齢問わず) ※長期間、寝具が使用不能であることが予想される世帯	1世帯あたり 2枚 ※単身赴任者は1枚
日用品 セット	1世帯4人あたり 1個 (5人以上の世帯は4人につき1個)	1世帯4人あたり1個 (5人以上の世帯は4人につき1個)	1世帯4人あたり1個 (5人以上の世帯は4人につき1個)

※日用品セットは、洗面具・軍手・フォーク・ナイフ・絆創膏等

社会福祉協議会職員募集中

応募期間は、10月14日（金）まで

社会福祉協議会では、令和5年4月1日採用の一般事務職員を募集しています。

高齢化する本村にとって、社会福祉協議会の果たす役割がますます重要となって来ています。社協では、現在今後取り組むべき業務について改善計画を策定し、次年度以降の業務について、取り組むこととしています。（詳細は、先月号の社協だよりおよび村広報紙または、村ホームページでご確認ください。）

社会福祉協議会事業紹介

戦没者追悼式

大戦により亡くなられた本村の戦没者223柱の御霊を追悼し、併せて世界の平和を祈念するため、遺族会員等を中心として宗教的に中立な立場で戦没者追悼式を開催します。

社協の中期計画においては、この追悼式について、遺族会の皆さんとの協議を行い運営の在り方を検討することとしています。

共同募金配分金事業

埼玉県共同募金会が行う「赤い羽根共同募金」および「地域歳末たすけあい募金」の所定配分金を活用し、「赤い羽根共同募金」の配分では敬老事業を、「地域歳末たすけあい募金」の配分では民生・児童委員の協力を得て、対象者に対し歳末慰問事業を行っています。

ボランティア活動への支援

地域住民のボランティア活動と地域福祉への理解を深めるとともに、ボランティア活動の普及促進、援助等を推進します。

シルバー人材センターの会員を募集しています



本村シルバー人材センターでの主な就業内容は、個人や村から受託している草刈り、植木の剪定等が中心ですが、それ以外にも、村から委託を受けて実施しているゴミステーションへのかご設置なども行っています。

現在、業務量に対して、会員が少なく業務を安定的に行うことが困難な時もあります。人口が減り、地域の環境を保つことが難しくなっている状況の中、多くの方に会員になっていただき、村民の協力で村を守っていききたいと考えています。是非ご協力を！

10月のシルバー人材センター入会説明会は、
10月13日(木) 10時より
コミュニティセンターで行います。

たより雑感
9月に台風14号・15号が上陸し、大変大きな被害が発生しました。これまでの台風は、その進路上に被害が集中し、大きな爪痕を残してきましたが、今回の台風では、台風を中心から離れた地域でも暴風雨となり、土砂崩れや浸水の被害が発生しました。

台風14号の勢力はこれまでになく大きくなり、天気予報では、離れた地域でも線状降水帯の被害に注意するようにと、呼びかけが繰り返されました。

東秩父村では、避難所もハザードマップ上からみると、浸水や土砂崩れの被害にあわない場所には、ほとんどなく、避難するにも不安な状況です。

これからは、自身身の安全を確保できる場所を決めておく必要があります。村外に家族や友人・知人の方と話し合いい、自身の身を守るため、事前に避難する必要がある時代になったようです。